

医療連携・老化治療



Dr 乾 雅人（イヌイ マサト）先生

医師・呼吸器外科・美容皮膚科

医師・医療法人社団 創雅会 銀座アイグランドクリニック 理事長・院長
一般社団法人 日本複合医療臨床研究会 理事

●サロン担当日 非常勤（医療連携）

東京大学医学部医学科 卒業

2012年 東京大学医学部付属病院初期臨床研修修了 2014年 東京大学医学部付属病院外科専門研修修了

2017年 東京大学大学院医学系研究科外科学（胸部外科）専攻

2020年 銀座アイグランドクリニック開業・

2021年 医療法人社団創雅会設立 5デアザフラビン アンバサダー就任

【所属学会】 日本外科学会 日本胸部外科学会 日本呼吸器外科学会

日本再生医療学会 日本抗加齢医学会 日本美容皮膚科学会

「老化は治る」

このような表現に対し、皆さんはどう感じるでしょうか。怪しい！胡散臭い？というのが一般的な反応かと思います。しかし、最先端の研究者たちの前では最早常識になりつつあるのです。正しくは、今から12年前の2010年5月10日には、ロンドン王立協会で「老化は治る」という認識が結論づけられており、2019年にWHO（世界保健機構）が公表したIDC-11という国際疾病分類の第11回改訂版でも、明確に“老化”の概念が盛り込まれているのです。老化とは最早、人類が克服すべき治療対象の疾患と定められており、いよいよ、この“常識”が世間一般に認知されてきつつあると感じており、正に夜明け前なのです。

そもそも、加齢 = aging、老化 = senescence（セネッセンス）と表現が全く異なるのです。この老化 = senescenceは“個体の老化”のみならず、“細胞の老化”の意味も持つ。加齢とは、生誕から現在に至るまで、一定の速度で方向性に行進する過程の事で、対応する概念は『暦年齢（chronological age）』。一方で、老化に対応する概念は『生物学的年齢（biological age）』とでもいべきもののなのです“加齢≠老化”と捉え、まず“老化”を治療する事は“加齢≠老化”に伴って発症すると考えられてきた糖尿病や高血圧などの生活習慣病、認知症、筋力低下（サルコペニア）、骨粗しょう症、など老年症（老年症候群）の大半を、一網打尽に出来る可能性があるのです。それでも残る症状に対し、従来の確立した医療技術を適用したら良いのでは？

細胞が老化して“老化細胞”となった際には、周囲に炎症を引き起こし、SASPと言われる症候群を引き起こします。これは、内臓脂肪が周囲に炎症を引き起こし、生活習慣病を合併するメタボリックシンドロームに類似していますが、炎症を引き起こす主体である“老化細胞”を除去、或いは、何かしらの作用でその炎症を鎮静化（抗炎症）させることで、生物学的年齢（biological age）を巻き戻すことが可能なのです。やはり、治療すべきは“老化”なのです。

乾先生が推奨させていただく主なサービス

●老化抑制・疾病予防スマートエイジングサービス

5デアザフラビン（初回）	54,000円（税込・1ヶ月）
フォローアップ（次回以降）	18,000円～54,000円（税込・1ヶ月）

老化は治る!?医療の常識が変わる中、健康寿命を最長化する為に

本来は脾臓の病気（糖尿病）に対する治療薬として開発された「5-デアザフラビン」という物質は、NMNとの比較でも数十倍のミトコンドリア活性力を持っていた事がわかりました。Well Being GINZAでは、老化治療研究のパイオニアである乾医師との連携により「5-デアザフラビン100%配合の錠剤IG1128（DeaMax）」の効果（サーチュイン遺伝子やミトコンドリアの活性化）に着目したアンチエイジングサービスを行っています。

